

様式10 (会派用)

行政視察(研修)報告書

平成31年 4月 19日

南魚沼市議会議長 様

会派名 未来創政会

代表者名 中沢 一博

下記のとおり、視察(研修)が終了したので報告します。

視察(研修) 参加議員名	中沢 一博 桑原 圭美 永井 拓三 大平 剛
期 間	平成30年11月13日(水) 15時00分 ~ 16時30分 平成30年11月14日(金) 13時30分 ~ 16時30分
視察(研修)先	呉市 江田島市
視察(研修) 事 項	呉市「フィルムコミッション事業について」 江田島市「江田島市移住定住政策について」
視察(研修) 先 面 会 者	呉市 桧垣観光振興課長補佐 江田島市 古本交流観光課主任
概要及び所見	概要 呉市「フィルムコミッション事業について」 1 事業概要 2 効果 3 今後の課題 江田島市「江田島市の移住定住政策について」 1 移住定住事業全般について 2 空き家バンク制度 3 定住促進交通費補助金 4 質疑応答 5 現地視察 空き家バンク物件 サテライトオフィス フード 上記について説明を受ける 所見については別紙参照

呉市「フィルムコミッション事業について」

所見

呉市におけるフィルムコミッション事業は、平成15年に予算化され、今年度15年目を迎える。代表的な支援作品としては、「海猿」(H16)「男たちの大和」(H17)また「この世界の片隅に」(H28)等が挙げられている。

担当者の桧垣課長補佐のお話では、成功した理由としては、呉市の歴史的要因(呉鎮守府等)もさることながら、海・山・港・レトロな風景等様々なローケーションが一つの自治体で撮れる事が大きいとの事である。そして、それらロケ地を把握・整理し、情報提供していく事が重要であると、これは南魚沼市にとっても同様であり、大雑把な把握ではなく、情報の整備を行う必要と発信力の強化を目指す必要を感じた。

また、映画・ドラマに関しては、人間関係が非常に重要であり、個人の繋がりや連絡が来ることが多く、窓口となる人員を変える事を相手方が非常に嫌がるとの事である。その結果、ロケが長期にわたる場合の担当職員の負担増や、人事異動時の引継ぎの困難さが問題となるという。この問題に関しては、自治体職員が担当するのであれば、根本的な解決は難しいと思われる。しかしながら、継続性の観点からは、完全に民間に任せる事も難しい。南魚沼市では MMDO がこれを担えれば良いが、現状では難しいだろう。

さらに本格的にフィルムコミッション事業に南魚沼市が取り組むとしたら一番問題になるのは、エキストラやボランティアスタッフの安定的な確保であろう。人口減の中、人員の確保は難しく、近隣自治体との連携が必要となるであろう。

最後に、フィルムコミッション事業は作品が作られて終わりではなく、それをどう経済効果につなげるかだが、この点は中々に難しく、事業の実施に際しては作品との連携等について研究が必要と考える。

江田島市「江田島市移住定住政策について」

所見

江田島市における移住定住政策の中で、一番注目したのはやはり、「空き家バンク」についてである。南魚沼市においても最近始まったこの制度であるが、当市においてなかなか、物件の登録が無い中、江田島市では、11年間で213件の登録があり、そのうち161件が成約しているとの事であり、かなりの成果が上がっている。登録は個人からのものがほとんどである事から、いかにこの制度が市民に浸透しているかがうかがえる。また、空き家を利用した「おためし暮らし」制度等も成果を上げており、そのことも「空き家バンク」の認知度を上げる事に一役買っている。南魚沼市でも、地道な広報活動と共に、移住定住に活用し、市民に認知されるような方策を検討・実施する必要性があるのではないかと考える。

サテライトオフィス「フウド」はワーケーションの拠点であるが、海に近い風光明媚な立地であり、またオフィス内にハンモックが吊るしてあるのには驚かされた。IT産業においては、PC および IT 回線等が整備されていれば立地に左右されない為、こういったワーケーションには最適である。南魚沼市は、ITグローバルパークがあるが、同時に地域特性がいかせるワーケーションについても考えていく必要があるかもしれない。